



第一回カンボジア王国訪問報告

富山県カンボジア王国親善協会・会長
第一回カンボジア王国訪問団・団長
阪神化成工業(株) 代表取締役社長 高田順一

昨年の11月5日夕刻、東京赤坂にあるカンボジア王国大使館ではプー ソティレアット大使の離任式が開催されていました。

私は高井副会長、中村事務局長、谷野さんと一緒に参加いたしました。大勢の出席者の前に現れた大使は日本の紋付袴を召していらっしやいました。私は大使の着物姿を見て、この方は本当に日本がお好きなのだなと感じました。大使は私たちに

「私が先にカンボジアに戻って、全ての訪問先を手配するから安心して来て下さい」と、言っていました。また大使が信頼されているグリーントラベルの加藤社長にお会いし

現地での対応はカンボジア流でとお聞きし納得いたしました。

そして同年11月23日富山空港に参加者22名が集合しました。高岸副会長のご紹介で、当親善協会の会員以外に豊橋ライオンズクラブの柴田さん、白井さんに参加していただきました。使用機に落雷があり機体整備に思いのほか



◆下院議長、ヘン・サムリン閣下と！

異例の待遇！全員が議長応接室にて会見！

時間がかかり心配いたしました。ニュージャパントラベルの松田社長がクルーと私たちの間を行ったり来たりされ情報をいただきました。結果的に今回の旅行でのトラブルは長時間にわたった富山空港搭乗待ちだけに終わったと思っています。

プー大使が手配していただいたお陰でプノンペンでの滞在はVIP待遇でした。私たちの車とバスを二人乗りの白バイが先導してくださるのですが、そのやり方が正にカンボジア流でスリル満点でした。私たちは日本と比較して口々に感想を述べ合っていました。これがカルチャーショックというものでしょう。



今回の訪問の目玉ともいべき訪問先は下院議事堂とヘン・サムリン下院議長でした。広い応接室の扉が開き中に入った私たちを、議長は入口に立って迎えていただきました。想像していたより小柄で穏やかな表情をされていましたが、お話をされるときの眼差しは鋭く、一国の指導者の威厳を感じました。

今回お会いした政府関係の皆様は一樣に私たちの訪問を歓迎していただきました。そしてカンボジアの現状や将来を率直にお話していただきました。私は若い世代が国民の多数を占めるこの国の建設にける熱い思いを汲み取ることが出来ました。

今回の訪問は富山県カンボジア王国親善協会がカンボジア王国との間で出来ることを見つけることが目的でした。参加された会員の皆様それぞれがカンボジアの未来に関わりを持っていく思いをお持ちになったのではないかと存じます。

これから事業を具体化していくわけですが、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【カンボジアの光と影】

(株)タイワ精機会長 高井芳樹

先月、富山県カンボジア王国親善協会のツアーに参加し、一年半ぶりにプノンペンを訪問しました。この旅行は、今春結成された協会が今後具体的にどのような活動をしていけばよいかを皆で考えるためのものでした。

前駐日カンボジア大使のプー氏の計らいで、教育省大臣、下院のヘンサムリン議長、経済財務省大臣らを表敬訪問できました。そして

①カンボジアの政情は安定しており、1300万人の国民一人当たりのGDP（2007年）が594ドルとなり、四年続けて二けたの経済成長が続いている。②現在、観光サービスがGDPの38%を占めているが、今後は農業基盤の強化や発電、ボーキサイトなど地下資源の開発・加工に、さらなる外国からの投資を期待している。③国民の教育水準の向上が重要である・・・などの説明を受けました。

頂いたデータでは、なぜか日本からの投資が中国や韓国に比べて少ないように思いました。

私はシェムリアップ行き観光組と別れ、一人プノンペンに残り、プライベートで日本大使館や、元外務大臣のシリウッド殿下の私邸を訪れ、旧交を温めました。

プノンペンから南西へ、国道4号を車で二百数十キロ走ると海に出ます。カンボジアのビーチリゾートとして知る人ぞ知る「隠れ家」的な街、シアヌークビルです。その白い砂浜とマリブルの海がとても美しい通称「ハワイビーチ」では、カンボジア人の古い友人であるS氏が、四年前から総工費8600万ドルを投じて、大型のリゾート開発をしている現場を見ました。総部屋数五百五十七室の五ツ星ホテル、国際会議場、ショッピングモール、マリナーなど、私には目が回るような大規模な工事で、2010年4月に完成と聞きました。

近くに国際空港も建設中で、既に滑走路は完成していました。ターゲットは誰かという私の質問に対し、彼は「ヨーロッパやロシアの富裕層と日本人、そしてカンボジアのこれからの若者です。自分が、日本に留学していた時に、湘南の海岸によく遊びに行き、感動したのが原点です」と答えてくれました。そして帰りに隣のソッカビーチに案内されました。そこには既にプール付きの五ツ星のホテルがあり、大勢のヨーロッパ系の客がバカンスを楽しんでいました。

カンボジアでは小学校の教室が足りないため午前授業を受ける子と午後授業を受ける子がいます。小学校の就学率はようやく90%を超えましたが、まだまだ教科書や学用品が不足しているようです。先生の給料が安く、良い人材が集まらないとも聞きました。

カンボジア初の日系のマルハンジャパン銀行も誕生し、これからは日本からの投資が増えることを強く期待します。百数十万人が犠牲になったとされる内戦の傷跡から、カンボジアは力強く再建へ向けて動き始めていました。

親善協会副会長

2008年12月21日（日曜日）
北日本新聞の朝刊 『風向計』
に掲載されました。

カンボジア・アンコール遺跡感動の旅

大和製菓(株) 代表取締役社長 村上果

カンボジア親善協会ツアー参加のきっかけは「カンボジアの子供達にランドセルを！」の活動においてご協力・提供して頂きました先生やご父兄の方々、子供達からカンボジア・・・？どんな所・・・？聞かれても何も答えられず、一度は訪ねてみたい・・・そんなところに今回の機会を得ての参加でした。

会長はじめ役員の方々のご尽力により、前駐日大使や教育大臣、ヘン・サムリン議長等、表敬訪問、国情を聞かせて頂く事が出来ました。小学校就学率は90%位で、午前授業を受ける子供達と午後授業を受ける子供達に分かれている事、教科書や学用品も不足している・・・まだまだ都市部以外は電気もない所も多く再建途上の真只中の感じでした。この見聞を今後の活動に少しでも活かせればと思った次第です。

三日目からの、アンコール遺跡観光は神秘と感激の連続でした。東南アジア最大級の石造建築、アンコール・ワットの壮大なスケールに圧倒されました。神秘的な空気が流れる回廊のレリーフの数々、想像を絶するものでした。又、アンコール王朝のなかでも輝かしい功績を残した、ジャヤヴァルマン七世が造った広大な城郭都市アンコール・トム中央に位置するバイヨン。巨大な四面仏塔がそびえ立ちその微笑みはまさに世界平和を願うやさしいクメールの微笑として心洗われる旅となりました。

《カンボジアの青い空》

(有) タカギシ 代表取締役会長 高岸和男
親善協会副会長

富山県カンボジア親善協会が2008年3月に設立されました、カンボジアと交流親善をはかるには、まず相手国を視察することからでないか？カンボジア王国の青い空を見て、地域の声を聞いて、目線を下げることなく、何か親善協力ができることがあれば・・・との思いで、このミッションに参加しました。

訪問については、前駐日大使であったプー氏の紹介で、教育省の表敬訪問はじめ国会表敬訪問、下院議長ヘンサムリン閣下との面談、そして王宮視察等々が時間を惜しみながら過ぎて、将来のカンボジア王国の発展についても政府高官との交流により、参加した人々は少なからずの支援・協力の責任を感じたことと思います。

プノンペン市からシェムリアップ市に移動、世界遺産群のアンコールワット遺跡の一つである、タプローム遺跡を見学したあと、私たち4名は当初計画していたオプションコース（小学校の視察、クメール伝統織物研究所見学）を、チャーターした車で **”ロックチョウ こうべゆめ小学校”**を見学（神戸甲南ライオンズクラブの支援で設立）、更に寺院経営の外国語専門学校、国立小学校等々の視察をしました。日本で想像していた以上に現地は劣悪な環境で生活している実態に驚くばかりで、今は平和な日本も昭和20年～21年頃の終戦直後の状況が思い出され、その光景が心の中で重なりあい、将来のカンボジア王国には必ず陽が昇る！到来がある・・・と確信いたしました。

現地は水も、電気もない！雨季になれば、自宅の周りは水が溜まり、家の前で川魚を釣り、網で魚を獲っている光景は至る所で見られました。乾季になるとそこは草原になるそうです。

小学校に入ると、薄暗い教室に生徒は40～50名のクラス・学年編成、電気が無いので窓の明かりで授業、好天気の際は野外の授業をしている学校もありました。古い校舎は雨漏りがひどくて・・・新しい校舎を建てて欲しいと校長先生は訴えていました。

寺院経営の外国語専門学校では、日本語、韓国語、英語、中国語の授業がボランティア教師の指導で運営されていました。

小学校教師の給料は、日本円で月給3,000円程度で生活が苦しいので、他の副業を求めて学校を休む。その間生徒は自習を余儀なくす

る日々が続くと申しておりました。

こんな環境でも小学生は、**”学校が好き”**
”勉強が好き”と言って輝く眼差しで、私達を笑顔で迎えてくれました。

小学校校長先生は、①日本の皆様にはご支援をお願いしたい。②何もかも不足している。③単発的な支援よりも少額でも良いから継続した支援をお願いしたい。④支援については学校との直接交渉で決めていただきたい。等々強く要望されましたことが印象的でした。

シェムリアップ市内ホテルから約30Km、アンコールトム遺跡を通過して山間部に入ったところに「クメール伝統織物研究所」があり、車で3時間かけて訪問しました。所長様は、京都市生まれの日本人 **「森本喜久男」** さんでした。

1996年シェムリアップで5ヘクタールの土地を開拓し【伝統の森】と名づけました。内戦によって消滅しかけた伝統の絹織物について、地場産業として繭の生産、織物の生産、農業の育成に努力され、2009年2月に **シハモニ国王殿下が伝統の森を訪問**される予定と聞いて、日本人の国際貢献がカンボジア王国の星（スター）となって輝いている・・・このことが今回訪問した私達に勇気と誇りを感じさせ現地の村民からも歓迎されました。

森本氏は、工房で働く村民も増え、子供達も成長している今日、工房が立地している村には小学校が必要である。現在5Km先の小学校に通学しているが、1～2年生は通学ができないので、現在は工房内で学習している。

皆様方のご支援をお願いしたい！

と、要望されました。

私達ライオンズクラブメンバーは、国際貢献という奉仕活動の一環として、現地のニーズに合ったアクティビティを積極的に支援することが、このミッションを通して強く感じられました。あわせて近い将来、シェムリアップ市内には是非、

ライオンズクラブの設立を！

と、アプローチを忘れず森本喜久男氏に申し上げて、伝統の森をあとにしました。



カンボジア王国訪問団に参加して

(株)セキノ興産代表取締役社長 関野光俊

富山県カンボジア王国親善協会が設立され、今後どのような交流関係を築き、どんな活動をしていくのか？という視点での第一回目のカンボジア訪問旅行に参加させて頂きました。

私自身は三年前にシェムリアップに三日間滞在して、アンコールワット、トム、タブロム等世界遺産アンコール遺跡群、トンレサップ湖の観光等は経験済みでしたが、今回は首都プノンペンの行政の一部も見させて頂き、お国事情の話も聞けて大変良かったと思います。

そして通常の観光旅行では体験出来ない小学校を三校も順次訪問し、学校へ行ける事、勉強出来る事がうれしい、幸せだ、と云う子供達のきらきら輝く瞳に接し、大変感激致しました。

更にシェムリアップでは金色の輝きを持つ生糸との出会いからすべては始まったという森本喜久男さんという日本人が設立、経営されている「クメール伝統織物研究所」(IKTT)を訪問し、直接お話しを聞くことが出来ました。

カンボジア内戦と混乱の時代に消えかけたというカンボジア伝統の染め織技法を発掘し、緞織物を再生、復興させようと、今では500人規模の工房を運営し、手作りの伝統織物の再生計画のため「桑の木基金」運動(苗木3本を、一口3千円)を展開し、豊かな自然環境を取り戻す為にも全力を尽くしている森本さんのご苦勞の半生にも深い感動を覚えました。

今回、たまたまライオンズクラブのメンバーだけでIKTTを訪問し、現地の実情を森本さんから聞く中で、今後の交流、援助活動を思い巡らすとき様々な困難があるとは思いますが、カンボジア第二の都市、シェムリアップに

ライオンズクラブ

の結成を働きかけ、**スポンサー出来ないか?**という考えに至りました。

その昔、アンコール王都として栄えたシェムリアップは、北方には貴重な遺跡群が数多くあり、南方には雨季にはメコン川から流れ込み、乾季の三倍に膨れ上がるという、魚の宝庫のトンレサップ湖があり、近年外国人の観光旅行者が急増、高級ホテルが相次いで建ち、最近ゴルフ場もオープンしたそうです。

シェムリアップでのライオンズクラブ結成については、富山県カンボジア王国親善協会の設

立時に富山にもお越し頂いた前駐日カンボジア大使の、プーさんがシェムリアップ近郊のご出身という事もあり、更にもしかしたらIKTTの森本さんの存在も大きいと思われ、是非ライオンズクラブ結成の実現の可能性を探りたい。そして最も力になって頂けそうなのはプノンペンライオンズクラブのチャーターメンバー(設立会員)で、今回の私たちの訪問団のプノンペンでの懇親会にもご夫婦で出席されたソム・ソクラディさんに現地の事情を尋ね、シェムリアップでのライオンズクラブ結成へのお力添えを得るのが一番の近道と考えられますが・・・如何でしょうか？

ソクラディさんの企業

<http://www.emario-resort.com>

IKTT (森本さんのクメール伝統織物研究所)

<http://iktt.esprit-libre.org/>

カンボジアの緑と子供達

佐竹美智子

プノンペンからシェムリアップへ向かう機内から眼下に広がる水没した森や田畑が緑の点線を描いて見えるのにビックリ。今は乾季に入って間も無いのでこれから徐々に水が引いて行くと言う。

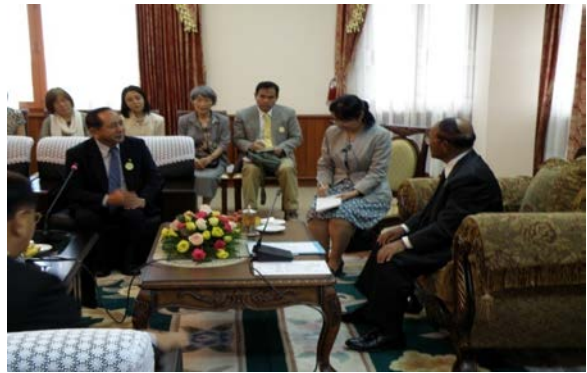
緑に包まれた一部の遺跡では、保存の為に絡らみついた木や近くの木も近い将来には切り倒されると言うから少し残念である。他方では大きな石造建築で精密、しかも緻密なレリーフが気が遠くなる程に続く。重機の無い時代にどの様にして造られたのか、先人の偉大さを感じさせられました。又そこに刻まれし神々に平和と繁栄と幸福を願ったことも空しく、**長い内戦**の後には地雷で今なお手足を、命を、失う人々があると聞いていましたが、**間近で足首を亡くした女の子に出会い思わず目を逸らした**こと、それに何処へ行っても子供の売り子が目立つ。二部制の教育を受けていると言うけれど全ての子供達が近くで一日中遊び勉強が出来るのは何時になるのだろうか、そして公衆トイレに明かりが無い。こんな所に太陽電池を利用した明かりがあっても良いのではと考えたけれど、それよりも先に一般家庭の明かりが必要なのだろうか、その一翼をになうことが出来るのだろうか。全てに恵まれている地に住む私共はもっと「**エコ**」に協力することが第一歩なのではと痛感してきた旅でした。



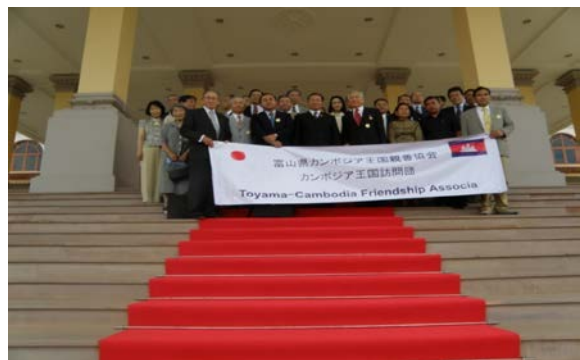
08年11月23日(日曜日)
 AM10:00。格好良く結団式。フライト予定は12:30。ところが到着した飛行機は飛来ならぬ被雷していた。我々は、出発ロビーで第三人の扱い。ワインを鱈腹呑んで諦めていたのにPM4:10発。酩酊状態で出国。万歳！万歳！また万歳！



11月24日 AM9:00(月曜日)
 教育副大臣イム・セティ閣下と会見！
 閣下は女性ですが、眼光の鋭さには敬服します。会見時間は、話に夢中になり1時間15分。さすが礼儀正しい日本人？？？
 雰囲気、英語なんて簡単！簡単！想像の世界？



11月24日 AM10:30(月曜日)
 下院議事堂内・議長特別応接室にて。
 ヘン・サムリン下院議長と眩しい会見！
 訪問の通例として、当初は3名だけとの話しだった。全大臣ともその予定であった。なのに全大臣急遽変更？？
 全て23名全員が入室。異例中の異例待遇！
 当地の新聞社や放送局の取材陣が10名以上でパチクリパチクリ！翌日TVや新聞に報道されました。
 新聞は見ましたが、英語なら解る？けど、クメール語だからチンプンカンプン解らなかつた。
 高田団長の右側の女性は、日本人通訳です。
 通訳がいれば、英語が得意な団長は日本語でしゃべるがかね？ いつも不審ながダチャー！



11月24日 AM11:50(月曜日)
 下院議事堂前。議長と会談後、議事堂見学。その後の晴れ晴れとした趣で堂々の一場面。
【赤い絨毯】 これは、我々の為に特別に急遽敷いたものである。何故ならば、ホコリも無し足跡も無し、まさらそのものであったから、確実にそう感じました。事実、この階段の裏隅に、残りの丸めた余りの絨毯が置いてあったのが何よりも事実。申し訳ない！の、ただ一言！
 でも、日本人より謙虚で優しい！



11月24日PM3:00 スン・チャントン閣下と!



【タ・プローム遺跡／頭の後ろは下図の根っこ】



【タ・プローム遺跡／ガシュマロの奇跡】



【アンコールワット遺跡／巨石群も小さく見える】



【アンコールワット遺跡／前庭の一部に過ぎない】



【アンコールワット遺跡／眩しい碧い空の下で】



【シムリアップの美女は、桜木町よりも可愛い】



【アンコールトム遺跡／時代の違い・石組が違う】

皆さん ごめんなさい

（株）総務部 代表 太田興作

数年前から夢見たカンボジア アンコールワット！アンコールトム！願いがかない、やっ
と行くことが出来ました。思えば何の用意もせ
ず（カメラさえ無しに）皆さんにおんぶにだっ
こ。気楽過ぎメンバーであったような気がし
てなりません。

でも、想像以上に良かったアンコール遺跡群
は、素晴らしいの一言でした。今回の感想をま
とめてみました。

【うれしかったこと】

- ・アンコールトムで買った絵がとても良い出来
だったこと（\$70でした）
会社の玄関につけてあります。

【感動したこと】

- ・ヘンサムリン閣下にお会いできたこと
（名刺は大切に持っています）
- ・ホテルのプールの水が生理食塩水だったこと
（目鼻が痛たくならないようにとの配慮、プ
ロのサービスを見させてもらいました）

【いやだったこと】

- ・キリングフィールド！あまりにも悲しすぎた
！！・・・こと

【悔いを残したこと】

- ・コブラ焼きを食べてこれば良かった・・・こと
- ・大きな大きな「リムジン」に乗ってこりゃ良
かった・・・こと

です。

皆さん「ごめんなさい」そして
「ありがとうございました」
又、行きま〜す。

「もっと見たい輝く瞳」

豊橋ライオンズクラブ 白井絏一

日本の終戦当時を思い出す。
イヤそれ以上に厳しい。

とおっしゃる先輩！シェムリアップ郊外・田圃
地帯をご覧になった感想をこの様に表現されま
した。私共が所属する豊橋ライオンズクラブも
50周年が過ぎ、クラブの更なる活性化と、ア
クティビティーの在り方を、これまで中心とし
た地域密着型奉仕事業に、国際援助奉仕も加え

るべく、年度当初より勉強と情報収集をして参り
ました。今回、高岸副団長ご紹介により同行させ
ていただきました。高田団長はじめ、多くの富山
県の皆さまに心よりお礼申し上げます。

プノンペンでの政府各方面からのご報告と共に、
シェムリアップでは、小学校等4校とクメール伝
統織物研究所（伝統の森）を訪問しながら、自給
自足を中心とした農業実態を垣間見、カンボジア
の悩める姿の一部を見る事が出来ました。しかし
カンボジアの貧困を主因とする問題は数多くあり
ました。政府のご報告では、義務教育でありなが
ら、小学校への入学率は90%（70%の情報も）
中学校40%であり、更に高校10%、大学5～
10%と学校・教育者・資材不足の現状がありま
す。

地雷・不発弾被害では、地雷（米国・ベトナム
・カンボジア・ポルポト等3派連合各軍敷設）埋
設・数百万個、不発弾（ベトナム戦時米軍50万
トンの10%程度）が、未処理の状態でも年間50
0～800人程が被害に遭っている状況の報告も
あります。

更に我々が気付いていない大きな問題は、8、
000～15,000人と伝えられる**人身売買**
（児童買春）の実態があるようです。

多くのメディア・NPO団体から文化財保護・
発掘、学校建設・教育資材提供、作業所建設等支
援は多岐に亘り、

”大人に仕事を！
子供に教育を！”

と呼びかけている現状があります。

親善協会の皆様とご一緒にカンボジアをもっと
知りたく思っております。今後のご指導と更なる
交流の程お願い申し上げます。

最後に小学校等、数多く出会った子ども達の**礼
儀正しさと、輝く瞳**が今も思い出され忘れられま
せん。



カンボジア王国訪問団に参加して

境自動車㈱代表取締役社長 境 貞雄

今回で私のカンボジア訪問は4回目となりました。と申しますのは、昨年「となみセントラルライオンズクラブ」の会長を務めさせていただいた折に、クラブ結成40周年の記念事業として

「カンボジアに生命（いのち）の水を」

をテーマに井戸20基の寄付と砺波市の中学生10名の派遣事業に取り組むこととなったためです。

1回目は07年5月、現地調査のためクラブ員3名とシェムリアップを訪れました。そして1日も早い安心して飲める水の提供が待たれている事を痛感しました。

2回目は同年11月にクラブ員10名と共に2度目の事前視察に訪れ堀削予定地の視察と堀削の様子を見学しました。

そして、3回目がいよいよ同年12月24日から28日までの5日間、クラブ40周年記念事業

『砺波市中学生カンボジア派遣団』

20名が現地を訪れ寄贈した20基の「井戸完成式典」に参加したときです。

蛇口をひねれば当たり前のように水が出る日本の中学生が、飲み水の確保すら難しい暮らしの中で精一杯生きる同世代の子ども達を目の当たりにした生徒たちは帰国報告の中で、実に多くの感じたこと、学んだことを発表してくれました。

さて、今回の視察で私はシェムリアップで皆さんと別行動となりましたので、そこでの件について報告させていただきます。今回の訪問団に愛知県の豊橋ライオンズクラブから白井さんと柴田さんの2名が参加されていました。お二人は、となみセントラルライオンズクラブの事業「カンボジアに生命（いのち）の水を」をライオン誌でお知りになり、豊橋ライオンズクラブとしても何かお手伝い出来ないかと、ライオンズクラブ名誉顧問で、当会の副会長の高岸さんの勧めで参加されました。また、私のクラブから次期会長の熊野さんも参加され、シェムリアップでは、豊橋のお二人と高岸さん、私たちの5人での行動となりました。

まず現況を知る為に現地の小学校（こうべゆめ小学校）を訪問。この学校は「神戸甲南ライオンズクラブ」が3年前に寄贈され、現在も備品などを提供してもらっているとの事でした。校長先生に『今後何かお手伝いしてもらいたい事は』と訊ねると、すかさず『敷地内に幼稚園などが出来れば・・・』とのことでした。なぜ幼稚園が必要なのですかと問い返すと、幼い兄弟の世話をし

なければならない多くの子供達が学校に来られないからとの事でした。・・・納得。

次に、お坊さんが自費で近所の子供たちに外国語などを教えている学校を訪ねました。そこは現在教室が手狭になったので、村の皆さんで増築中。しかし、増築とは言えその辺にある板切れを壁にして、屋根は葉っぱやトタンの切れ端で済ませた小屋でした。

さらに一校小学校を訪問しました。そこは老朽化が進み屋根が今にも崩れそう・・・。雨漏りがひどくて雨が降ると休校になりますとの事でここも援助を依頼されました。

翌日午前中は自分一人の行動となりました。朝ホテルを輪タクで出発。まず中学生派遣団が訪問の際にこの国の人々の暮らしや戦争の歴史、地雷などについて講演をいただいた松岡修二さんを訪ねました。松岡さんはカンボジアのホテルで働きながら自費で村部の学校に援助を続けておられる方です。次に山本日本語学校を訪れました。ここは、井戸掘りや中学生派遣事業で親身になってご指導いただいた、JHC（旅行代理店）の山本宗男会長が自費で運営され生徒の学費は無料といった学校で、訪ねてみると生徒たちの大歓迎を受けました。

この事業で実際に現地の学校や村人との仲介役であったJHCの後藤さんにも会うことが出来ました。

後藤さんには、昨年大変にお世話になったお礼と今回の訪問の趣旨をお話ししました。その後、日本語学校の生徒さんたちとの歓迎の中で、今の子供たちに何が必要かと尋ねると、多いのが「鉛筆や消しゴム、ノートそして制服（上下で5ドル位）」等でした。

また、今回の訪問を期に、熊野さんと私で【井戸一基分】を寄贈し後藤さんに依頼して日本語学校を後にしました。

今回の訪問が、今後私たち「富山県カンボジア親善協会」にとって大変有意義な訪問であった事を確信して帰路につきました。

それでも明るい子供達

豊橋ライオンズクラブ 柴田高志

2008年11月 富山県の皆様のお陰で、カンボジア訪をすることが出来ました。政府要人のお話や歓迎会、祝賀会など貴重な体験をさせて頂き、大変感謝申し上げます。

私の職業は、書道・日本画・洋画・化粧用などの筆製作と容グッズの製造卸です。国内外での文化交流や広告関連、美関係を主な活動範囲にしています。

愛知県豊橋市在住の私にとって今回のカンボジア訪問は、所

する豊橋ライオンズクラブの海外支援活動の勉強を深める為の貴重な時間となりました。

支援活動を行なう際は、現地の人々の視点に立ち、少しでも有効な資金活用が重要です。校舎の建設、井戸掘り事業、文具支援、その他、カンボジアの人々にとって有効な支援とは何か、と考えながら視察いたしました。

教育大臣は、**カンボジアの国家戦略**についてこう述べています。①農業・人材育成・民間会社の育成・インフラ整備・教育を中心に行っている。②教職員の育成・宿舍・幼稚園などが不足している。③給食配布や職員の不正を正す事、就学率をあげることも大きな意義がある。④海外からの投資で就職できる場所を作ることも、教育の向上に役立つ。⑤現在小学校は6, 500校ある。現在の不足は20%である。

以上のお話の内容から最低必要な学校は、1, 625校と推測されます。

私は滞在中に中学の視察を行いました。現在、校舎があるのは恵まれていると思うかもしれませんが、物資が無い中で建設された校舎は、非常に簡素な作りでした。カンボジアの雨季は6月から10月の間、校庭が水浸しのため休校であるほどであり、雨漏りがひどく、屋根も柱も腐っていました。また、井戸があっても塩害や濁りで飲み水には適さなくなっていました。子供達は、飲み水を持参しなくてはならないのが現状でした。そこで井戸をもっと深く掘り下げることが必要であるとのことでした。安全な水の利用状況は、農村人口の26%、都市部65%です。また予防接種を受けられない子供が多く、31%が未接種。そのため5歳未満の死亡率が18%を超えています。先生は国家公務員であり、給料は**2,500円から4,000円**。この給料の他に、家庭教師や塾の収入が無ければ生活が出来ないそうです。生徒の状況は、教科書は全員に渡っておらず**2人で1つ**の教科書を見ていました。**ノート1冊27円・鉛筆1本25円**と大変高価である。授業は午前7時からで1日5時間。科目は、算数・クメール語・社会・**自習**であった。

カンボジアは、校舎以上に教師不足です。私は、食べたい物も食べずに、子供達に勉強を教えている教師に質問しました。1番必要なのは教師ですか？それとも校舎ですか？校舎です！と返事が返ってきました。どうしてそう思うのですか？子供が好きで、教師を希望する人は大勢いますから！と笑顔で返事が来ました。私は、この国の明るい未来を見た様な気がしました。輝く大きな瞳を持った子供達の手を取り明るい笑顔で話しかける先生に、お別れの手を振りながら

「私が失いかけていた大切なものを教えて下さった」

と、熱くなる目頭を押さえながら帰路につきました。

本当の支援とは何か？ 支援する側も、支援される側も、ともに地球に生きている人間であり、幸福に生きていく権利がある。どちらが偉い、偉くないのではなく、お互いの存在があるからこそ、幸せだと実感できるのだ！

それこそが、本当の支援、幸福感なのだ！

私は、さらに**支援の輪を広げるべく**励んでいこうと心に誓った。

旅の思い出！

小西社会保険労務士所長 小西澄夫

今回のカンボジアの旅の目的は――！

旅はどこへ行くかということもさることながら、誰と行くかということも大きな楽しみです。今回図らずも、現地に着いてから、同年齢で同室だったO氏と知り合い、それにO氏の友人のM氏とも知り合いました。これでひそかにバスの後部席で三人組が結成されました。

午前中の公式訪問を終えて、早速午後から三人組は意気投合して別行動開始決定！

現地通訳の仲介で、輪タク（バイクタクシー）の運ちゃんとの交渉してもらい、半日貸切でプノンペン市内を飛び回りました。信号待ちで道路中央に停車したとき、ふと横を向くと**小さい女の子がさらに小さい赤ん坊を抱えて**、こちらの顔を凝視しています。**どうも物乞いらしく**、こんな交差点の真中では危ないので早くあちらへ行くように手で合図しますが頑としてその場を動きません。遂にわずかの紙幣を渡してその場を去りましたが、このことに限らず、プノンペン市内では外国人旅行者に**やたらと物乞い**するようです。子供たちの後ろで糸をひく存在を想わずにはおれませんでした。屋台に立ち寄ったら、**相変わらず物乞いの小さな子供たちが**近づくて来てじっと顔を見る。人と物があふれている街中に、貧困が同居していました。

旅で幾つか感じたことは、アンコールワットの見学パスポートの発行が水も漏らさず厳しく、さらに**一人40ドルと高い**。国民一人当たりの**GDPが600ドル**、このアンコールの観光資源が**如何に大きなものか**。そして昔のクメール文化が余りにも素晴らしく、今日のカンボジアが将来、先祖の残した**遺産の上に胡坐**をかいて生きて行くことができるだろうか？



アンコールトム遺跡の象さん！

【ぞうさんも、いさんのうえに、あぐらかな】

子供達の目は輝いて！

協栄薬品㈱代表取締役社長 吉浦昭光

今回私は夫婦で参加させていただきました。現在、日本の各地区のライオンズクラブ・NPO法人・民間団体が数多くのカンボジア支援を行っています。

私は、富山県カンボジア王国親善協会の一員として参加し、数多くの事を学んでまいりました。

一番の思い出は、カンボジア政府の要人の話にありました。支援と同時にインフラの整備が一番必要であるとの事でした。

現在のカンボジアは日本の何年前の状態かはわかりませんが、GNP二桁の伸びを続けているとのことでした。

貧しいですが

子供たちの目は輝いて いました。

今の私には、何が出来るか・何をすべきかを考えさせられる訪問でしたが、私の小さな力がお役にたつのなら、ぜひ協力して行きたいと思っています。

ありがとうございました。

カンボジアとのフレンドシップ

高井宏子

この度、カンボジアとの親善はどのようにあればよいかという目的を持って、彼の国を訪問しました。

印象でものを言うことはよくないと思いますが、私の感想は**”混沌としている”**というものでした。戦後の日本を思い出させるような現実もあり、高級車を乗りまわしている人々も見かけました。

貧しさの中に身をおく子供たちを見ると、私の孫だったら――と胸の痛みを覚えました。しかし、子供たちは皆元気で逞しい。明るく目に輝きがありました。

私自身も敗戦の貧しい社会の中で、あの子たちと同じでした。二部式学校、すし詰教室、整わない学用品、靴みがきの子、親を失った子・・・でも、誰も不平を言ったり、不満に思ったりしませんでした。

こうした事を思うとき、カンボジアの人々どのように友好を保ち、深めていくかということは、大変難しいことと思います。自立支援はしても、**物乞いを作ってはいけない**。双方が共存し、対等の立場で助け合い、協力し合う間柄を構築しなければならないと思います。

そのためには、現地の方々とよく話し合い、理解し、納得できる関わり方を見つけなければならないと思います。時間がかかり、面倒かもしれませんが。

◆旅行日程表

- ①期間＝2008年11月23日（日）～27日（木）
- ②23日＝富山発12:10～上海～ **ペノンペン泊**
- ③24日＝教育大臣・下院議長・経済大臣各訪問
歓迎晩餐会 **ペノンペン泊**
- ④25日＝シェムリアップへ移動
タ・プローム、アンコールワット、
プレ・ループ等世界遺産見学
民族舞踊を楽しむ **シェムリアップ泊**
- ⑤26日＝アンコール・トム見学
ペノンペンへ移動・搭乗 **機中泊**
- ⑥27日＝上海乗換～富山着11:20

◆参加者・同志の皆様

高田順一・団長／高井芳樹・副団長／高岸和男・副団長／高井宏子／太田興作／吉浦昭光／吉浦まり子／佐竹美智子／佐藤善政／宮岸武／関野光俊／中村政勝／白井紘一／村上果／小西澄夫／若森征雄／川本元充／境貞雄／熊野澄夫／成川栄一／堀醇子／柴田高志／旅行添乗者＝松田隆
以上23名 記載は受付順・敬称略

◆編集後記

ようやく会報第一号を作る事ができました。心の片隅にいつも思いながら歳の精か直ぐ忘れる。歳の精とは、便利な逃げ口上の言葉ですねー？

今年度の予定は、3月か4月ごろに新任大使にご来富を賜り「総会」を開きたいと考えております。

この会報は、私がパソコンで作りました。よって誤字脱字が多々あると思いますが、これも歳の精にし**堪忍堪忍**して下さい。ただ、幸いな事に追加要望の方には、一部つつでも直ぐコピー出来ますからいつでも連絡して下さい。

尚、複数部お送りしますので、「**会員募集**」用にお使い下さい。

事務局長＝中村政勝 090-3763-3409